

## 実行委員会企画①

# We can Transformation ! 共創と共業

## 座長集約

弘前大学医学部附属病院

成田 将崇

八戸市立市民病院

佐藤 匠

近年、少子高齢化や医療人材不足が進む中、医療現場の働き方改革を着実に進むためには、医療機関全体としての効率化や多職種も含めた勤務環境改善に取り組むことが不可欠です。患者さんへのきめ細やかなケアによる医療の質の向上や、ICT 技術等を活用した業務の効率化を進めるためには、職種を超えた「共創と共業」を進める必要があります。本シンポジウムでは、「タスクシフト×共創と共業」、「多職種連携でつくる医療 DX の未来」という二つのテーマから、「共創と共業」の実践について議論が行われました。「タスクシフト×共創と共業」では、竹田総合病院の鈴木雅博先生と、星総合病院の続橋順市先生よりご講演いただきました。鈴木先生からは、自施設におけるタスクシフト導入から現在の状況、タスクシフト導入による将来的な診療放射線技師の業務拡大の重要性についてご講演をいただきました。続橋先生からは、施設の Top が必要性を認識し行動することの重要性と、タスクシフトは患者のためのものであるという認識の重要性についてご講演いただきました。ディスカッションでは、タスクシフト導入に際しての課題や、多職種連携の在り方等について、看護師サイドの意見も頂きながら活発な議論が行われました。

「多職種連携でつくる医療 DX の未来」では、東北

大学病院の益子紘夢先生と、青森県立中央病院の看護師である齊藤幸子先生よりご講演いただきました。益子先生からは、生成 AI と Google ワースペースを活用した自施設独自の DX の作成と、業務効率化や業務実態把握への成果についてご講演いただきました。齊藤先生からは、コマンドセンターの概要と、システムの導入を通じた働きやすい職場環境の実現や多職種連携の重要性についてご講演いただきました。ディスカッションでは、DX の導入、システム構築における課題や、可視化されたデータの共有とその成果について活発な議論が行われました。

本シンポジウムでは、タスクシフトと医療 DX という二つのテーマから、「共創と共業」について議論が行われましたが、4 名の先生方のご講演から、「共創と共業」は、患者さんへの良質な医療の提供や働きやすい職場環境の実現のためにあるものであり、タスクシフトや医療 DX はそのためのツールとして非常に重要なものであると感じられました。最後になりますが、本シンポジウムの内容が、ご参加された皆様の施設で「共創と共業」の一助となることを祈念致しまして、本稿を閉じさせていただきます。ご講演いただきました 4 名の先生方、ならびに活発な討論にご協力いただきました参加者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。